

2017年6月4日茅ヶ崎教会での分かち合い（使徒言行録2：1～11・ヨハネ20：19～23）

聖霊降臨、おめでとうございます。

① 聖霊についてどんなイメージを持っておられますか？

聖霊について、**聖書にはいろいろな聖霊についての記述**があります。今日の第二朗読、

1コリ12：3 「イエスを主という」聖霊による

1コリ12：4 聖霊の賜物（＝カリスマ）・・・聖霊による様々な能力

典礼聖歌「あなたの息を」⇒ 聖霊の続唱 / Veni Creator Spiritus / 始業の祈り

十字架のしるしをする時、「聖霊」と呼びかけます。「父と子と聖霊」をこんな風に考えて見たらいかがでしょうか？**バラの木をイメージ**してください。バラの木は父、バラの花は子、聖霊はバラのかおり。聖霊は目で捉えられないけれど、香りとして存在がわかります。だから聖書の中で、聖霊について「真理の霊・慰め主・創り主」たくさんの表現があります。

② 第一朗読、「使徒たちの宣教」（使徒言行録は「聖霊の福音」といわれます）は、聖霊が歴史の外的な出来事の中に働いていることを伝えています。イエスの行為は死に打ち勝ち、墓から出て、父の許へ帰り、イエスを信じる人々に聖霊を与えるという一つの行為。この世の時間の枠組みの中に生き続ける一連の出来事でキリスト教の外面的、つまり目に見える発展段階を、エルサレムでのユダヤ人に向けた説教から始めて、パウロが異邦人世界の中心地、ローマへ辿り着くまで物語っています。

③ 「聖書と典礼」の脚注に説明がありますように、今日の朗読は、本来敬虔なユダヤ人がエルサレムにある中央聖所つまり神殿に上ってくる**巡礼祭**です。イエスの死と復活の直後の巡礼祭に、ガリラヤの弟子たちとイエスの家族がエルサレムに来て滞在している間に、様々な言葉で語り始めるという形で、**聖霊の現存が特別な恵みとして明らかに**されました。この背景に旧約聖書のエジプトからの解放の記念としての過越祭と7週間後にシナイ山での契約があります。（出エジプト記19章）・・・神が姿を現すのに、稲妻と煙で表現。この出来事はイエスにおいて神が行われたことを公に告げ知らせる使命が彼らに与えられたしるしとして、受け止められました。⇒ **教会の誕生**

④ ヨハネ福音書は、キリスト者の内面のいのちに**聖霊の働き**を見えています。弟子の内面的な在り方の中に聖霊が働いていることをつたえようとします。この永遠のいのちは洗礼の時に与えられ、永遠のいのちのパンで養われ、善き牧者が世話し、**最後の晩餐で助け手（パラクレトス・聖霊）、弁護者を送ると。**

⇒ヨハネ14：16～17, 26 弁護者＝真理の霊、

ヨハネ19：30「イエスは、このぶどう酒を受けると、『成し遂げられた』と言い、頭を垂れ

て息を引き取られた。フランシスコ会訳 ⇒「息をお渡しになった。」＝聖霊を十字架の死と復活（霊を渡された）はコインの両面で、同時です。絵画として、20世紀の画家サルバドール・ダリの「十字架の聖ヨハネのキリスト」ヨゼフ会館の1F参照。

死と復活は神の目からは唯一の出来事。ルカ 23：43「あなたは今日、私と一緒に楽園にいる」とともに十字架にかけられた盗賊へのイエスの言葉。

⑤ 体験・・・必要なことは聖霊が教える

45年前に、昨年茅ヶ崎教会で実施しましたイエズス会創立者の「イグナチオの**1か月の霊操**」を体験しました。1か月世俗を離れて！その中で3日間ほど朝食後から夕食前まで沈黙でない日がありましたが、他は完全な沈黙で祈りの日々を過ごしました。一日に5時間、個人で祈り他に指導司祭（その時はイエズス会のエバンヘリスト師）が、黙想の要点についての30分くらいの講話とごミサで、本当に素晴らしい祈りの日々でした。霊操の終わり頃に、私は「これからこんな素晴らしい日々をどのように続けてゆけるのでしょうか」と質問したら、ヨハネの**第一の手紙**の「いつもあなた方のうちには、**御子から注がれた油**（聖霊）がありますから、**誰からも教える必要がありません**。この油が万事について教えます。それは**真実であって、偽りではありません**。だから、**教えられたとおりに、御子のうちにとどまりなさい**。」（1ヨハネ2：27）聖霊が教えるので、誰からも教える必要なくよい・・・といわれました。以来その言葉を思い出し、事実、聖霊はその都度必要な導きをくださり、50年以上、シスターとして、召命に感謝しつつ生かされています。

⑥ ヨハネの福音では、最後の晩餐の説教で約束された聖霊が、復活の日の夕方に弟子たちに与えられます。「あなたがたに平和」と言われ、「父が私をお遣わしたになったように、私もあなたがたを遣わす」彼らに息を吹きかけてから、「**聖霊を受けなさい。誰の罪でもあなたがたが赦せば、その罪は許される・・・**」といわれます。ローマ人への手紙の5：5に「**希望は私たちを欺くことはありません。私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです**。」この神の愛、聖霊が既に心に注がれているから、ゆるしが可能なのです。私たちが与えられている聖霊に信頼して歩みましょう。